



7月号では「書くこと」、11月号では「読むこと」の評価について確認したけれど、「話すこと[発表]」の評価をするためには、児童の話していることをどのように見取ればよいのでしょうか。

事例 評価の場面(第4時/全8時間)

クラスの友だち同士で発表するというゴールに向け、指導者のモデルや、指導者とのやり取りを参考に地域への願いなどをペアで、相手を替えて複数回話す。

目標：「話すこと[発表]」ウ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

単元の評価規準の例(話すこと[発表])

- 知識・技能** 施設・建物を表す語句やWe (don't) have ~. We can enjoy/see ~. I want ~. の表現について理解している。自分たちが住む地域について、施設・建物を表す語句やWe (don't) have ~. We can enjoy/see ~. I want ~. の表現等を用いて、自分の考えや気持ちなどを話す技能を身に付けている。
- 思考・判断・表現** 自分たちが住む地域について相手に伝わるように、自分の考えや気持ちなどを話している。

こう見取る!(例)

知識・技能

思考・判断・表現

【十分満足できる状況A】

自分たちの住む地域について、We don't have ~. I want ~. I like ~. Do you like ~? などの既習表現を正しく用いて、欲しい施設やその理由について、自分の考えや気持ちなどを話している。

児童 1

We don't have a library.
I want a library. I like books.
(本を開くジェスチャー)
Do you like books?

【十分満足できる状況A】

自分たちの住む地域について、I like books.と理由を言ったり、ジェスチャーを使ったり、Do you like ~? と相手に問いかけたりしながら相手がよく分かるように話している。

【努力を要する状況C】

ある施設やない施設を表す表現について理解が十分でない。また、それらを使って自分の考えや気持ちを十分に話せていない。

児童 2

We ... don't ... a library. OK?
I like books.
I ... I ... like a library.

【おおむね満足できる状況B】

言いよんだりする場面はあるものの、自分たちの住む地域について、OK?などと相手の理解を確認したりI like books.と理由を言ったりして、自分の考えや気持ちなどを相手によく伝えるように話している。

評価を指導に生かすことが大切です



語句や表現を十分に聞かせたり、使ったりする機会を設け、改善状況を見取りながら第7時の発表につなげました。



We have a book store. We have a stadium. But we don't have a aquarium. I want a aquarium. What do you want?



We ... don't have a library. I ... want a library.

Hello. This is my town. We...don't have a library. OK? I like books. I ... I want a library. We have a park. Big park. I ... Jogging. OK? Thank you.



知識・技能

言いよぶ場面や表現の間違いが一部見られるものの、おおむね自分の考えや気持ちが発表できているので、おおむね満足できる状況Bと判断した。

(第7時における児童2の発表)